



青森県教組養護教員部 2023.2.3.

節分

折々のことば

鷲田 清一 2586

学校の空気がなじみず不登校の一年を過した男子は深夜、公園で仲間と「俺たちってダメだよな」と愚痴りあったという。抑えきれない不安や焦燥を母親にぶつけたのは「心理的距離が近い」からで、外に出すことで辛うじて沈静化したのだと、長らく教育相談に取り組んだ木津秀美は記す。荒井裕司編著『大丈夫！不登校。』から。

2022・12・15

母親に向かって、「死ねばいい」……こののり分は自分に向かって言っている。

高校一年生

斜影の森から

福島申二



お元気ですか。

毎日の冬道の通勤、ご苦労様です。無事に学校に着くとほっとすることでしょう。一仕事終えた気持ちになりますよね。

真冬日が一週間も続き、雪片づけに追われる生活。すべて転ばないように足下を見て歩く日々。寒さで縮こまる身体。毎年のことながら春が待ち遠しいです。でも今年はずっと異変が！「4月1日から電気料金を32.94%値上げする」というハガキが東北電力から届きました。大きな値上げ幅です。春になったら雪や寒さは和らぎます。家計に冷たい物価高はいつになったら止むのでしょうか。

「人類」は愛せても「隣人」を愛せない

長く携わってきた新聞記者という仕事柄、教訓や戒めにしてきた言葉がいくつかある。その一つが詩人石川逸子さんの「風」と題する詩の一節だ。

遠くのできごとに
人はうつくしく怒る

自分から遠い理不尽や、遠い人の苦痛に対して、人はたやすく、美しい正義感を抱きがちだ。だからこそ、偽善と感じない偽善、感傷と自覚しない感傷の心地よさに、とらわれてしまっはなるまいと自戒してきた。

そんな石川さんの詩と地続きといえるだろう、正月休みに作家山田詠美さんのエッセー集をめぐっていたら、どきりとする言葉に出会った。「ヒューマンイズムは、自分と関係の

ない場合にだけ、熱く語られる……」

子どもの虐待をめぐるエッセーなのだが、ずばり急所を突いている。思うところを付け足せば、虐待のニュースに涙して「社会全体で育てなきゃ」と言う人は多い。ところが世の中、子どもが泣けば周囲の不機嫌に親はしばしば縮こまり、遊ぶ声さえ迷惑がられることもある。つまり自分から遠いできごとには、人はやさしいのだ。

子どもの虐待に限らない。差別など社会の様々な問題にも同じことは言えるのだろう。そうした人間のありようを自問させられる映画が、昔あった。

くか。我が事となれば錦の御旗の下から本音がのぞく」

映画の当時は人種差別がまだずっと激しく、異なる人種の結婚を禁じる州さえ幾つもあった。司教から「世界を変えるのがあなたたちだ」と(新聞のキャンペーンのように?)諭されても、父親は反発して取り合わない。

とはいっても父親の態度は醜悪ではない。むしろ良心ゆえに葛藤する。最後の映画になった名優スペンサー・トレイシーの「誠実なるたえぶり」にはどこか共感を覚えたものだ。

「人類を全体として愛することのほうが、隣人を愛するよりも容易である」。これはエリック・ホッファーの残した言葉だ。「招かれざる客」の舞台になったサンフランシスコで、港湾の肉体労働をしながら独自の思索を深め、「渡止場の哲人」と呼ばれた。言葉

アメリカ映画「招かれざる客」(1967年)は、全体の約9割が室内シーンで展開される会話中心の映画である。人種差別がテーマの名作だが、私は「主張と現実」がぶつかる新聞人の葛藤の物語として胸に響いている。

——サンフランシスコの高級地に住む地元紙の社主は、リベラルで公正な人物として信望が厚い。新聞では人種差別を正すキャンペーンを組み、一人娘にも、白人が有色人種より優秀だという考えを持たないように教え、育ててきた。その娘がある日、婚約者だといって黒人医師を家に連れてくる。

社主と妻は思いも寄らない「客」に驚く。母親である妻は「親の望み通りに育て、教えた通りに信じて……誇りにしたい」と理解を示すようになる。しかし父親のほうは受け入れられずに心乱れるばかり。古い親友である温厚な司教にずばり言われる。

「面白い、自由主義者がおのれの主義に泣

は、社会の片隅をよく知る人が、映画の新聞社主に類する人たちに向けた辛辣な皮肉のようにも思われる。

人類という抽象は美しいが、個々の人間となると美しいだけでは済まない。たとえば移民や難民のように、しばしば厳しい目を向けられる人たちもいる。思えば日本も、国境に壁をつくるトランプ元米大統領の排除の手法を批判はしても、隣に移民がいる暮らしを受け入れようとはならない。

世界には森羅万象があり、当事者がいる。同情にせよ共感にせよ、非当事者が表出するには相応の覚悟が要る。それは「忘れない」「考えることをやめない」という良心に他なるまいと思う。

ふくしま しんじ 元朝日新聞編集委員。2007~16年に天声人語を執筆。近著は『日曜の言葉たち』(岩波書店)。

朝日新聞 2023年1月31日
とても興味深く読みました
より。

大砲よりバタを

防衛費倍増「5兆円」あったら何ができるか?

| | | |
|--------|------------------------------|----------|
| 子育て・教育 | 大学授業料の無償化※ | 1.8兆円 |
| | 児童手当の高校までの延長と所得制限撤廃※ | 1兆円 |
| | 小・中学校の給食無償化 | 4386億円 |
| 年金 | 受給権者(4051万人)全員に1人年12万円を追加で支給 | 4兆8612億円 |
| 医療 | 公的保険医療の自己負担(1~3割)をゼロに | 5兆1837億円 |
| 消費税 | 現在10%の税率から、2%を引き下げ | 4兆3146億円 |

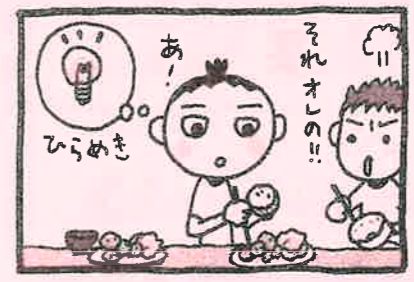
※の大学無償化、児童手当は立憲民主党試算による(東京新聞 2022年6月3日より)

平日に弘前のあるデパートのレストラン街に行ったら、6軒のうち4軒が閉まっていた。びっくりしました。何と寂しいことでしょう。もう「〇〇街」と呼べないですね。今まであったものがなくなるというのは本当に切ないものがあります。どこに行っても景気が悪く暮らしていくのは大変です。単純に回す予算を、国民の生活保障に回してほしい。

文責 阿部陽子 スマイルサポート(017-722-3749)



ひらめいたら、
すぐ行動する！



「キッパリ」

●文庫本のためのおまけ

今思うと、あの2回の打ち合わせがなかったら、『キッパリ!』は日の目を見なかったんですね。「虫の知らせ」ですぐ電話してよかった!

それ以来「ひらめいたらすぐ行動!」を呪文のように唱えています。

ひらめきは生もの。



おてんき てんきII RANKO

<1569>



上大岡トX

幻冬舎